

『ある晴れた夏の朝』

弘前市立第一中学校

鎌田 莉央

「安らかに眠って下さい 過ちは 繰返しませぬから」

これは、広島にある慰霊碑に刻まれた被爆者へのメッセージです。この文章を読んだ時、私は過ちを犯したのは日本だと思いました。これは人類が犯した過ちのことでした。

この本は、広島・長崎への原爆投下は必要だったのかということについて、否定派と肯定派にわかれてディベートをするという話です。私は否定派でした。広島原爆で亡くなった人は大勢います。後遺症の人もあります。戦争が続いていたにしてもそこまでする必要はなかったのではないかと思います。さらに、アメリカが人種差別をしていたことや、人体実験のために原爆を落としたかもしれないということを、許せない気持ちが強くなりました。

しかし、それとともに日本が犯したこともわかりました。中国に一方的に攻め込み、罪のない中国人を殺した南京虐殺、ユダヤ人を絶滅させようとしていたドイツと同盟を組んでいたこと、そのドイツが降伏しても戦争をやめなかったことな

どを知り、原爆は必要だったのかもしれないという意見が出るのもわかる気がしてきました。わたしは、どうすれば過ちが繰り返されずに平和を創造できるのかを考えました。その時に広島慰霊碑に刻まれた文章が本文の中に出てきました。過ちを犯したのが誰なのか。その主語が、アメリカでも日本でもなく人類ということがわかった時に、おたがいに自分たちの犯した過ちを認めなければならぬと思いました。

そこで、アメリカの人はどう思っているのかと思い、調べてみました。原爆を開発、投下し撮影した、ハロルド・アグニュー博士と被爆者との対話をした動画をみつけました。アグニュー博士は、「私は謝らない。」と言っていました。それを聞いて、原爆投下は正しいと思っている人もいるとわかりました。私もアメリカ人だったら、そのように考えていたかもしれません。でも、この本に出てくる原爆肯定派だったナオミは「どんな言い訳が成り立とうとも、広島と長崎への原爆投下は許されざる行為だったと思う。」と言っていて、私

は、この言葉に強く胸を打たれました。本当にそのとおりだ
と思います。日本も同じことだと思います。どんな言い訳が
あっても、罪のない人々の所に一方的に攻め込むというのは
決して許されない行為だと思います。やはり、日本もアメリ
カも大きな過ちを犯したと思います。それを二度と繰り返さ
ないようにするには、自分たちの罪を認め、一人一人が亡く
なった人のことを忘れずにいることが平和を創造する第一歩
になると思います。

今年の八月六日、九日も、ニュースでたくさんの方の話

を聞きました。平和の灯や慰霊碑などからは平和への強い願
いを感じました。それから原爆で家族を亡くした人や、被
爆した人の話を聞きました。この本の題名の、「ある晴れた
夏の朝」とは、広島・長崎に原爆が落とされた日のことです。
その日は、普段の私たちと同じ朝だったのです。そこに、原
爆が落とされ、大勢の方が亡くなりました。

ナオミが最後に言った「私も平和を創造する一員でいた
い。」という言葉、私が平和を創造するためにできることは
まだわかりませんが、私も平和を創造する一員でいたいです。